

1. 評価結果概要表

平成20年 11月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	2072800655		
法人名	社会福祉法人 孝明		
事業所名	グループホームかじか庵		
所在地	長野県安曇野市穂高2531番地3 (電話) 0263-82-1323		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年12月1日

【情報提供票より】(20年 10月 3日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤12人	非常勤2人 常勤換算12.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	400 円
	夕食	200 円	おやつ	120 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 (10月 3日 現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名	
要介護1		要介護2		4名		
要介護3	11名	要介護4		2名		
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	83.7 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安曇野赤十字病院 穂高病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

安曇野市穂高の北部、青木花見地区に位置し、西隣にかじかの里公園があり、信濃富士と謂われる有明山が望め、遠くには爺ヶ岳を始めとする北アルプスがその勇姿を讃えている。事業所の周辺は田圃や畑、家々、さらに木々に囲まれ、穏やかな風景が展開している心安らげる空間となっている。併設されている介護老人保健施設との連携を密に保ちつつ、事業所独自の理念を持って「生き生きとその人らしさ」を支える温かみのある介護が行われている。近隣の公園を訪れる小さな子供たちを始めとする人々とのふれあい、散歩途中で出会う地域の人々との交流と地域の中で心豊かに過ごしている。敷地内の畑を利用しての野菜作りや花壇作りと利用者と共に暮らそうとしている姿勢が伺えた。居室の窓から見える風景は、木々を始めとして四季折々の風情が楽しめて季節の移り変わりと共に生き、ゆったりと時を過ごしていることを感じた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の主な改善課題はありません。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を十分に理解し、全職員で取り組むとともに、自ら気付かないことを気付かせてもらえる良い機会と捉えている。評価内容を今後のサービスの質の向上へと繋げる努力をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は構成メンバーも基準を満たしており、定期的に開催されて意見交換も充分に行われている。事業所の内容についても十分に説明されているので、地域の事業所に対する理解も深まっている。これを契機にして、未だに薄い認知症の理解のための地域での学習会などを運営推進会議を中心に企画していくと地域貢献や市との連携もさらに深まるものと感じた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や家族会等の機会を活用して、ご家族の思いや希望を聞いている。利用者の日々の暮らしぶりの報告も充分に行われているので、ご家族との良好な関係、信頼関係が出来上がっていると感じた。たよりの送付、2か月に1度の金銭管理簿の確認等、ご家族の安心につながる報告が丁寧になされていた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	隣接するかじかの里公園での多様な交流、散歩時での近隣住民とのふれあい、時には近所からの野菜等のおすそ分けなど地域の中に溶け込んだ繋がりが出来上がっている。納涼祭などの事業所内での行事にも多くの地域住民が参加しており、又、気軽に事業所を訪れる方も居て、訪れる方の守秘義務等への理解不足という若干の不具合を抱えつつも、良い近所づきあいが出来ていることを感じた。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げ、利用者のお話を十分に聞いて常に「その人らしさ」が発揮できるよう日々の生活を支えている。玄関先の壁に、訪れた方、職員がいつでも見えるように理念が掲げてあった。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝夕の集会時に日常的に話し、全職員に浸透しており、職員からは違和感無く理念の言葉が出ている。仕事をするための拠り所、立ち返るところであることが十分に理解され、日々の実践の中で理念の実現ができていたことを感じた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣にあるかじかの里公園に集う人々とのふれあい、散歩で出会う近隣の住民との会話が活発であり、時には野菜等のおすそ分けをいただくなど親しいお付き合いが出来ている。自治会へも加入し、事業所内の納涼祭には地域からの参加も多いと伺った。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価すること、されることの異議を理解し、全職員で取り組んでいる。事業所は自分たちだけのものではなく、ある意味で地域のものであると理解している。自分で気付かないことを気付かせてもらえることはサービスの質の向上に繋がるという事を理解し、改善が必要なことは実現へ向けての努力をしている。		

グループホームかじか庵

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の構成員は基準を満たしており、意見交換も充分に行われている。会議も年4回と定期的に行われていて、評価や事業運営についても議題として話されており、事業所の理解も深まっていると感じた。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>納涼祭への参加などを通じて市との関係は親近感を持った良好な繋がりを保っている。管理者が包括支援センターの運営委員になるなど市からの熱いまなざしや期待を感じた。この関係を活用して市の福祉関係職員等への認知症や事業所理解の場を設けることも連携をさらに深めることになると感じた。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や家族会を通じて利用者の様子を伝えたり、2か月に1度は金銭管理簿の確認をもらい、たよりを送るなど家族にとって利用者の事業所での暮らしぶりがつぶさに感じられるよう十分な配慮がなされている。これらは離れて暮らすご家族に安心をもたらしていると感じた。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付箱を設置し、面会時や家族会等を活用して、ご家族の意見や思いを聞くようにしている。これまでに意見等は無かったのが現状である。設置した受付箱より直接話すことの方が多く状態であり、ご家族との信頼関係が出来上がっていると感じた。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>併施設との異動が主となるが、クリスマス会や誕生会などに参加するなど交流の機会が多くあり、職員異動の違和感が無いよう努めている。さらに事業所内への介護の新しい風も必要であり、硬直化した関係の払拭も大切であるので、利用者へのダメージを最小限にしつつ異動を行っている。</p>		

グループホームかじか庵

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは指名で出席させ、研修報告会も行い、研修内容の全職員への共有化を図っている。事業所内でもテーマを決めて、併設施設と共に研修会や勉強会を行い、感染症や口腔ケアなどの日々のサービスに欠かせない事項をじっくりと学んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本圏域のネットワークには加入しているが、近隣とのネットワークは現段階では出来ていない。管理者が市の介護保険事業者連絡協議会の構成員になり、グループホームの部会の責任者になっているので、この組織を土台にしてネットワーク作りを模索中である。孤立化しやすいサービス部門であるだけに相互訪問などによる新風の取入れが出来れば良いと感じた。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に十分な話し合いをして信頼関係を築くようにしている。利用者、ご家族共に十分な理解と納得を得た上で入居してもらっている。そのため入居までに時間の掛かるケースがあり、部屋の空いている期間が長くなることもあるが、気持ちよく、安心して入居できることを優先していると伺った。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑の野菜作りや花壇の管理、料理方法など利用者と共にすること、教えてもらえることなどを見つけて行っている。重度化の傾向があり、日々の調理はなかなか出来ないが、おはぎ作りなどは昔取った杵柄で一緒に作っている。常に人生の先輩として接するように心掛けている。		

グループホームかじか庵

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>記録、カンファレンス、申し送りなどより慣れ親しんだ生活スタイルなどを把握して一人ひとりの思いを実現しようと努めている。ご家族からの情報も聞きながら「その人らしい生活のあり方とは」という問い掛けを大切にしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>最初はケアマネージャーが主となり、利用者、ご家族の意見を聞いて課題を分析し、介護計画作成に取り組んでいる。計画はご家族の理解を得ると共に全職員の共有化を図っている。一応利用者一人ひとりの担当者は決めてあるが、各種記録はその日の担当が行うので介護計画への十分な理解が必要になっている。全職員の連携のもとで、ケアが実現できていることを伺った。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の担当者が中心となり、3か月に1度、介護計画の見直しのための話し合いをしている。6か月に1度、介護計画書の評価、見直しを行い、ケアマネージャーにより統括の介護計画が作成されている。状況の変化に応じて随時、臨機応変の見直しを行い、現状に即した介護計画書が作成されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設施設の看護師が週2回健康観察を行うなど医療連携体制が整っており、移送、通院、入退院の付き添いなどの支援も行われている。ショートなどの多機能性の支援は併設施設との密なる連携を活用して利用者、ご家族、地域からの要望に応えている。</p>		

グループホームかじか庵

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>これまでのかかりつけ医の継続利用を、ご家族の付き添いを基本にして行っている。2週に1度、近くの病院の往診を受けている利用者があるが、中にはこの利用を希望する人もいるので、ご家族の了解を得て、かかりつけ医の変更をした方もいる。利用者にとってより適切な医師を選択することは安心した生活を支えることにつながると感じた。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に終末期の話をし、終末期における対応指針は出来ている。事業所での対応が難しいケースもあるため、充分に対応できる併設施設との連携の中で利用者やご家族の思いや望みを実現できるよう努めている。そのため、終末期の対応をしたケースは、これまでに事例が無かった。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時に話し、誓約書も取り、研修会等でも十分に話し合いは行われている。利用者の尊厳を傷つけない言葉掛けや態度は日々の暮らしの中では常に意識しないと行ってしまうがちであるので、主任等が中心となって常に気遣っていることが大切であると感じた。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の基本的な生活の流れはあるが、日常生活の会話等の中から利用者が、その日にしたいことを聞き、出来る限り自分で決められるように支援している。さらに一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、一日の暮らしが豊かな気持ちで過ごせるように柔軟に対応している。</p>		

グループホームかじか庵

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化のため調理はなかなか出来ないが、準備、下膳、片付けは行っている。その日の食材は一括購入しているが買い物の折、乾物や調味料は利用者と共に購入している。月に1度は店屋物を取ったり、時にはカップラーメンを食べたりと食事を楽しんでいることを伺った。調査日は畑で取れたサツマイモを利用しての汁物をおいしく頂きました。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、一日3名ずつゆったりと入浴を楽しんでいる。風呂嫌いな人には気分がよい時に入浴するよう対応し、足浴を楽しんでいる方もいる。風呂に入りながら外の木々を眺められ、季節の移り変わりを感じながら楽しめる明るい浴室になっていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の片付け、洗濯物たたみ、野菜作り、刺し子、花壇の手入れなど、それぞれの場で主役となれることに取り組んでもらい、役割や楽しみごとの支援をしている。昔取った杵柄で干し柿作りも上手に包丁を使って楽しんでいることを伺った。楽しいことをやるのが一番の気晴らしになることを感じた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週1回の地域のスーパーへの買い物外出、月1回の花見等の行楽ドライブ、日常的には近隣の公園等へ散歩に出掛けている。多くの人たちとの出会いの中でよい交流が出来上がっている。ご家族との外出、外泊も楽しみの一つになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は危険回避のためにご家族の了解を得た上で鍵をかけているが、利用者の思いや希望があればいつでも自由に外出できるような態勢になっている。居間や部屋からでも充分に外の風情は楽しめて、事業所内での楽しみも多く、特段閉鎖されている感じはしなかった。		

グループホームかじか庵

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	併設施設との消防署の協力を得ての年1回の合同防災訓練と年2回の夜間想定の実業所内訓練を行っている。併設施設との連携があるので夜間一人になることに関しては不安は少ないと感じた。地域からの協力についても併設施設で防災協定が締結されているので十分な協力を得られることを伺った。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	併設施設の栄養士による献立に基づいて調理しているので栄養面は充分であり、食事量、水分量もチェック表により把握できている。利用者が持参した馴れ親しんだ茶碗、汁椀、箸などを使用しており、管理、保管するには手もかかるが、食が進むように配慮されていることを感じた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	食堂と台所が繋がり、調理の音や匂いが感じられ、天井から日の光が差し込み、明るい空間となっており、居間はソファー3脚とテレビ観賞の間と一段高くなった座卓のある畳の間となっていて好みに応じてくつろげるようになっている。窓からはかじかの里公園や遠くに北アルプスが眺められ、ゆったりとした時間が流れていた。食堂の壁には利用者の各種の作品が飾られていた。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室は備付けのベッド、折畳み式ドアの衣類等の収納スペースがあるが、利用者の好みで衣類ケースなどが収められていた。壁にはご家族の写真や手紙などが貼られて馴染みの物を持ち込められるよう配慮されていた。広さ、窓からの景色、採光など居心地良く過ごせる部屋となっていた。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。